

2025年度 環境経営レポート

〔2025年 5月 1日～2026年 4月 30日〕

2026年8月20日

千代田興産株式会社

目次

環境経営方針	3頁
1.組織の概要	4頁
2.対象範囲	5頁
3.環境経営目標とその実績	5頁
4.環境経営計画の実施状況と評価	6～7頁
5.環境経営活動の活動事例	8～9頁
6.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無	10頁
7.代表者による全体評価と見直し・指示	10頁

千代田興産株式会社

環境経営方針

基本理念

千代田興産株式会社は、「電機技術を通じ社会に奉仕する」の経営理念をもって、地球環境の保全への取組が最重要課題の一つであることを認識し、従業員一人一人が積極的かつ継続的に環境負荷を軽減し、社会貢献を目指した企業活動を推進します。

基本方針

千代田興産株式会社は、環境に関する法規制を遵守し、法に基づき必要な処置を講じて、環境改善を図ることを目的とし、以下の方針を推進致します。

1. 当社の事業活動に係る環境影響を常に認識し、自主的・積極的に環境負荷の削減を図ります。
2. 当社の事業活動に係る環境関連法規その他の関連事項を遵守します。
3. 当社の事業活動に係る環境影響に関し、以下の事項を環境管理テーマとして取り組みます。
 - ① 二酸化炭素(CO2)排出量の削減
 - ② 廃棄物の削減及びリサイクル
 - ③ 水使用量の低減
 - ④ グリーン購入の推進
 - ⑤ 省エネに対応した取扱商品の販売・提供
 - ⑥ 経営環境システムの継続的な改善
4. 当社の環境経営方針を全社員に周知し、環境経営レポートを作成し、公表します。

制定 2008年7月1日
改定 2009年9月1日
改定 2011年7月8日
改定 2016年9月1日
改定 2022年9月26日
改定 2023年9月27日
改定 2025年5月1日

千代田興産株式会社
代表取締役 宮脇 一朋

1. 組織の概要

(1) 事業者氏名及び代表者名

千代田興産株式会社
代表取締役 宮脇 一朋

(2) 所在地

本 社	〒810-0012	福岡県福岡市中央区白金2丁目5-16
東京支社	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町4丁目6-7 光洋ビル
大阪支店	〒550-0002	大阪府大阪市西区江戸堀1丁目15-27 アルテビル肥後橋
中国支店	〒730-0037	広島県広島市中区中町7-32 ニッセイ広島ビル
四国支店	〒760-0022	香川県高松市西内町4-6 神原ビル
鹿児島営業所	〒890-0052	鹿児島県鹿児島市上之園町25番1号 中央ビル
大分営業所	〒870-0037	大分県大分市東春日町6番1号 つつみビル
岡山営業所	〒700-0984	岡山県岡山市桑田町18番28号 明治安田生命岡山桑田町ビル
神戸営業所	〒650-0023	神戸市中央区栄町通2-3-9 共栄ビル
沖縄営業所	〒900-0015	那覇市久茂地3-9-3 田園ビル4F

(3) 環境管理責任者及び担当者の連絡先

・環境管理責任者 総務部長 横田 伸天
・環境管理担当者 総務部 宇野 健一
・連絡先 TEL 092-533-2981 FAX 092-533-2999
・E-mail uno.kenichi@cknet.co.jp
・URL <http://www.cknet.co.jp>

(4) 事業の内容

・電気機器の販売並びに販売に関する設置・保守

(5) 事業の規模 (各年4月末現在)

区 分	場 所	2022年	2023年	2024年	2025年
従業員(人)	本 社	84	92	94	98
	東京支社	14	13	12	15
	大阪支店・神戸営業所	55	55	58	59
	中国支店・岡山営業所	37	41	39	39
	四国支店	4	4	4	4
	鹿児島営業所	6	5	6	4
	大分営業所	5	5	6	6
	合計	205	215	219	225
床面積(m ²)	本 社	890	890	890	890
	東京支社	152	152	152	152
	大阪支店・神戸営業所	507	507	507	507
	中国支店・岡山営業所	238	352	369	369
	四国支店	56	56	56	56
	鹿児島営業所	83	83	83	83
	大分営業所	107	107	107	103.5
	合計	2,033	2,033	2,147	2,161

(6) 事業年度

・5月～翌年4月

(7) 建設業許可

・国土交通大臣 許可(特-4) 第2455号
電気工事業/電気通信工事業/管工事業

2. 対象範囲

(1) 事業所名

1. 千代田興産株式会社

本社
2. 千代田興産株式会社

東京支社
3. 千代田興産株式会社

大阪支店
4. 千代田興産株式会社

中国支店
5. 千代田興産株式会社

四国支店
6. 千代田興産株式会社

鹿児島営業所
7. 千代田興産株式会社

大分営業所
8. 千代田興産株式会社

岡山営業所
9. 千代田興産株式会社

神戸営業所
10. 千代田興産株式会社

沖縄営業所

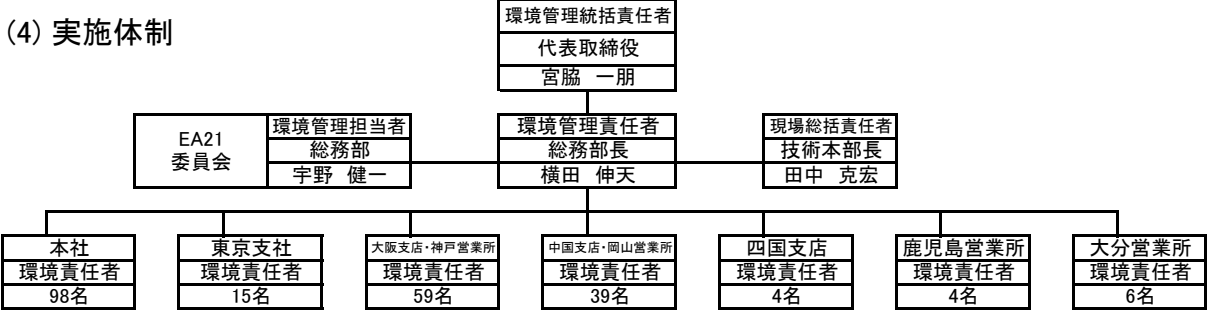
(2) 活動

- 電気機器の販売並びに販売に関する設置・保守

(3) 対象外事業所及び対象外事業活動

- ありません。

(4) 実施体制



3. 環境経営目標とその実績

環境方針に基づいて、以下の目標を掲げて環境活動に取り組みました。

(1) 【第71期(2025年5月～2026年4月)の目標と実績】

区 分	年 度	単位 (総量)	目標 削減率 (基準年比)	基準年 実績	年度目標	実績	目標達成状況		
							対基準 年度	対年度 目標	自己 評価
I 二酸化炭素排出量削減		kg-CO ₂	-1.5%	182,559	179,821	172,210	-5.7%	-4.2%	○
①電気使用量		kWh	-1.5%	218,638	215,358	203,234	-7.0%	-5.6%	○
②自動車燃料(ガソリン)		L	-1.5%	34,445	33,928	34,378	-0.2%	1.3%	△
③自動車燃料(軽油)		L	-1.5%	10,439	10,282	8,284	-20.6%	-19.4%	○
II 水使用量		m ³	-1.5%	615	606	363	-40.9%	-40.0%	○
III 産業廃棄物の削減		Kg	-1.5%	44,548	43,880	199,156	347.1%	353.86667845645500%	×

・二酸化炭素排出量の実績値において、購入電力の排出係数は下記の係数を使用しました。

- ①本社、鹿児島支店、大分営業所

0.000296t-CO₂/kWh
- ②東京支社

0.000384t-CO₂/kWh
- ③大阪支店

0.000299t-CO₂/kWh
- ④中国支店

0.000529t-CO₂/kWh
- ⑤四国支店

0.000484t-CO₂/kWh

(2) 【主要指標の前年対比】

区 分	年 度	単位 (総量)	第70期 実績	人数	第70期 1人当たり	第71期 実績	人数	第71期 1人当たり	前年 比
I 二酸化炭素排出量削減		kg-CO ₂	182,649	219	834.0	172,210	225	765.4	-8%
①電気使用量		kWh	220,887	219	1,008.6	203,234	225	903.3	-10%
②自動車燃料(ガソリン、軽油)		L	44,558	219	203.5	42,662	225	189.6	-7%
II 水使用量		m ³	536	141	3.8	363	147	2.5	-35%

4. 環境経営計画の実施状況と評価

(1) 二酸化炭素排出量の削減

取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
電気使用量の削減 (-1.5%)	○	・エアコンの温度設定 冷房時温度 27℃ ・不要照明の消灯 ・OA機器の節電 ・電力使用のデマンドモニター ・エネルギー効率の高い機器の導入	△ △ ○ ○ ○	大阪/四国支店における空調入替工事の効果継続もあり、全社的に使用量減に繋がった。一過性のものにならないように継続する。
自動車燃料使用量の削減 (-1.5%)	○	・エコ運転の徹底 ・アイドリングストップ ・エアコンの冷やしすぎ注意 ・法定速度運転の推進 ・急発進・急加速の禁止 ・空ふかしの禁止	○ ○ ○ △ ○	支店ごとに明暗分かれる結果となっているが、基本的に営業活動における使用量のため、やむを得ない部分であるとは認識している。継続的な取り組みは実施できている。 eテレマに関しては、エコドライブと安全運転の意識醸成に寄与している。 ドライブレコーダーは全車搭載済みである。安全運転の慣行に努める。

(2) 水使用量の削減

取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
水使用量の削減 (-1%)	○	・水道水圧を下げる ・使用量の削減	○ ○	管理対象は本社と大阪支店のみである。 本社の水栓トイレの入れ替えによる効果が定着。

(3) 廃棄物 排出量の削減

取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
一般廃棄物の削減	○	・会議資料等の電子メディアの利用促進 ・裏紙の活用促進 ・使用済み封筒再利用の推進 ・ごみ分別の徹底	○ ○ ○ ○	社内運用の結果、一般廃棄物の排出量は、社内努力による今以上の削減効果が見込みにくいことや気温等の外的要因(寒暖差における缶・瓶・ペットボトルの増加等)が大きい為、数量把握は本社を除いて中止します。従来通り、適正処理を実施すること。

取組対象	達成 状況	取組計画	実施 状況	評価
産業 廃棄物の 削減	×	廃棄物の適正処理の徹底 大気汚染排出量および騒音の少ない機器を使用する。	○ ○	工事件件ごとに適正処理および排出量の低減に努めている。一方で本年の産業廃棄物量に関しては、中国支店工事で大規模な取り換え工事が行われ、工事の性質上大量の産業廃棄が行われるという特殊事情があった。

(4) グリーン購入比率向上

取組対象	達成 状況	取組計画	実施 状況	評価
グリーン購入比率向上	△	・グリーン購入対象商品の購入推進 ・エコマーク製品の優先的購入推進	○ △	今後、グリーン購入については、目標を意識せずに取り組んでいく。

(5) 省エネに対応した取扱商品を増やす

取組対象	達成 状況	取組計画	実施 状況	評価
環境・省エネに貢献する商品の取扱	△	・脱炭素型製品の推進 ・高効率等の省エネルギー機器 ・センサー利用の機器制御省エネシステム ・再エネ・省エネ・再生利用商品の提案	△	省エネ提案の件数に拘らず、提案実施から社会的に省エネ製品の普及に寄与する。

(6) 環境負荷低減に配慮した工事

取組対象	達成 状況	取組計画	実施 状況	評価
環境負荷の低減	△	・環境負荷の少ない工事内容の提案 ・全体的な工期の短縮を目指す ・環境負荷の低い製品の選定 ・工事における科学燃料/電力/産廃の低減	○	事例としても可能な限り工期短縮も実施できている。

次年度の環境経営目標と計画は、中期計画を継続するものとする。

5. 環境経営活動の活動事例

補助金を活用したファイバーレーザー加工機への設備更新



営業担当者コメント

自動車車体製造業のお客様において、約10年間ご利用いただいた他社製炭酸ガスレーザー加工機を、「先進的省エネルギー投資促進支援事業費補助金」を活用し、三菱製ファイバーレーザー加工機へ更新しました。設備更新により加工性能の向上に加え、省エネ率64.0%、省エネ量5.605kl/年を実現する見込みです。本設備の導入により、エネルギー使用量の削減を図るとともに、企業活動を通じた省エネルギーの推進と環境負荷の低減に寄与することができました。

環境経営計画に対する定期的な評価を実施



担当者コメント

環境経営計画の遂行状況を確認するため、定例会議を開催し、進捗状況の確認および評価を実施した。会議は移動に伴うCO₂排出量の削減を目的とし、テレビ会議システムを活用して実施している。

参加者 中国支店 : 環境責任者ほか主要メンバー
岡山営業所: 環境責任者(TV会議出席)

<活動事例-社内関係抜粋->

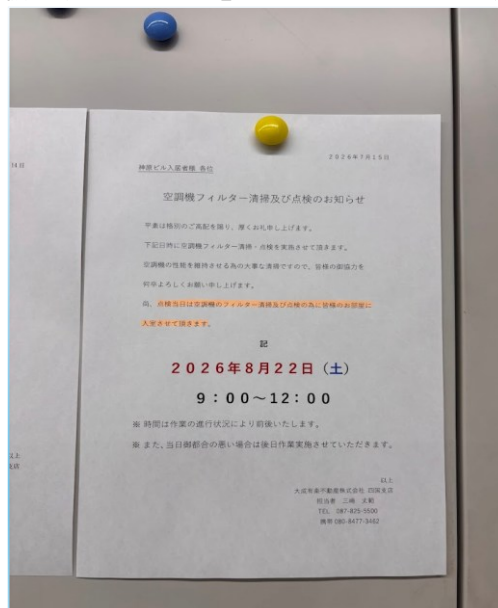
ごみの分別の徹底

ビルのゴミ置き場で、資源ごみ・可燃ごみ・不燃ごみを正しく分別し、リサイクル促進に努めています。



エアコンの定期清掃による省エネ化

管理会社からの案内に基づき、休日時にエアコン清掃を実施し、機器効率の向上と電力削減につなげています。



日常的な節電の意識づけ

スイッチ周りに「小まめに消灯・設定温度厳守」の掲示を行い、職場全体で省エネ行動を継続しています。ウォームビズ・クールビズを徹底することで、室内温度の省エネ化につなげています。



6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動において法的義務を受ける主な環境関連法規は次のとおりです。

適用される法規制等	適用される事項(施設・物質・活動等)	適合状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物(本社) 建設業関連廃棄物(本社・大阪支店・中国支店)	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品 業務用の空調機器	○
自動車NOx・PM法	車両管理	○
騒音規制法	規制基準	○
建設リサイクル法	特定建設資材の分別・再資源化	○
電気工事法	法令の遵守および事業許可期限の管理	○
建設業法	法令の遵守および事業許可期限の管理	○

上記の環境関連法規の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。
また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

7. 代表者による全体評価と見直し・指示

中期目標

区 分	年 度	単位	2023年度	2024年度		2025年度		2026年度	
			基準年	2024.05-2025.04		2025.05-2026.04		2026.05-2027.04	
				削減率 (基準年より)	年度目標	削減率 (基準年より)	年度目標	削減率 (基準年より)	年度目標
I 二酸化炭素排出量削減		kg-CO ₂	182,559	-1%	180,734	-1.5%	179,821	-2%	178,908
①電気使用量		kWh	218,638	-1%	216,451	-1.5%	215,358	-2%	214,265
②自動車燃料(ガソリン)		L	34,445	-1%	34,101	-1.5%	33,928	-2%	33,756
③自動車燃料(軽油)		L	10,439	-1%	10,334	-1.5%	10,282	-2%	10,230
II 水使用量		m ³	615	-1%	609	-1.5%	606	-2%	603
III 産業廃棄物の削減		Kg	44,548	-1%	44,103	-1.5%	43,880	-2%	43,657
IV 一般廃棄物の適正処理			数量等の目標等なし						
V グリーン購入の実施									
VI 環境・省エネ商品の取り扱い									

※ IV～VIに関しては、適正処理・経済合理性の範囲での実施・環境省エネ承認の推奨を目的にし、定量把握は行っておりません。
※ 新計画における目標は直近3か年をベースにして算出している。
※ 中期目標と計画を継続しています。

本年度は2023年度実績を基準値とした新中期計画の2年目にあたります。
2025年度の活動を振り返ると、社員数が219名⇒225名と人員的には微増しました。

本年度の環境経営活動は、全体として非常に良い結果に終わりました。
内容としては、電気使用量、自動車燃料および水使用量の全てが前年費10%弱の削減ができました。
前年の空調入れ替えやLED化、新しい車両への入れ替え効果が発揮されたと認識しております。
一方で大型工事により、産業廃棄物の量は非常に多く排出されたが一過性のものと考えておりますので、
工事現場においては従来通りの運用を徹底してください。

本年度の良い結果を継続するように今後も全社員で協力し合い積極的に環境負荷の低減に取り組み、
環境経営目標の計画を達成するように取り組んでください。

千代田興産株式会社
代表取締役 宮脇 一朋